

高校野球における理想のキャプテンのあり方

—フォロワーの目標志向性に着目して—

1621279 宮本健太

Key words: リーダーシップ, 高校野球, 目標志向性

目的

わが国における集団内部発生的リーダーに関する研究はごく少数である。また、これまでに行われた集団内部発生的リーダーに関する研究においては、調査の対象が様々な競技スポーツに混在していること (e. g., 石田・小川, 2011)、検討されてきたリーダーシップ特性が競技スポーツに関連した能力に限定されて測定されてきたこと、フォロワーの特性と選好するキャプテン像の関係性が明らかになっていないこと (村井・猪俣, 2010) が課題としてあげられる。そこで本研究では、高校球児を対象とし、集団の成員 (フォロワー) の目標志向性によって、理想のキャプテン像にどのような違いがあるのかを検討した。

仮説1 「競技能力」「競技知識」よりも「目標志向性」「学業における成績・姿勢」がキャプテンに必要な要素として重視される。

仮説2 「個人目標」の高いフォロワーは、理想のキャプテン像として「競技能力」「競技知識」を重視する。

方法

手続き 大分県内の高校3校の男子硬式野球部員105名を対象に質問紙法を用いて行った。

質問紙の構成 質問紙は、個人属性及び理想のキャプテン像、部活動における目標志向性、所属部活動集団への適応感に関する質問項目で構成した。

結果と考察

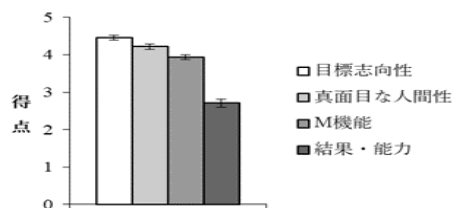


Figure 1. 理想のキャプテンシーに関する尺度得点の比較

仮説1 について検討するため、理想のキャプテン像の因子得点を1元配置の分散分析を用いて比較した結果、それぞれに有意差が認められた ($F(3, 309)=145.40, \eta^2=.59, p<.01$, Figure 1)。「目標志向性」「真面目な人間性」が重視され、「結果・能力」は重視されない傾向にあり、仮説1は支持された。この結果から、高校球児は

キャプテンに対して、人間的な信頼性を重視していることが示唆される。

Table 1

目標志向性や集団適応感が理想のキャプテン像に及ぼす影響

| | 真面目な人間性 (Step1採用) | 目標志向性 (Step1採用) | M機能 (Step2採用) | 結果・能力 (Step1採用) |
|----------------------|----------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 学年 | .06 | -.08 | .13 | .19 |
| 野球歴 | -.06 | .04 | .15 | .06 |
| リーダー経験 | -.02 | -.20 * | .07 | .16 |
| 正選手・控え (0:正選手, 1=控え) | .21 | -.06 | .14 | -.12 |
| 集団目標 | .01 | .30 * | -.17 | -.16 |
| 個人目標 | -.06 | -.02 | .27 * | .45 ** |
| 居心地の良さの感覚 | -.12 | -.11 | -.03 | .12 |
| 課題・目的の存在 | .34 * | .23 | .50 ** | .01 |
| 被信頼・受容感 | .17 | -.07 | .12 | -.13 |
| 劣等感の無さ | .02 | .17 | .01 | .08 |
| 個人目標*居心地の良さの感覚 | | | .26 | |
| 個人目標*課題・目的の存在 | | | -.13 | |
| 個人目標*被信頼・受容感 | | | -.39 ** | |
| 個人目標*劣等感の無さ | | | .09 | |
| 集団目標*居心地の良さの感覚 | | | -.42 * | |
| 集団目標*課題・目的の存在 | | | .43 ** | |
| 集団目標*被信頼・受容感 | | | .27 | |
| 集団目標*劣等感の無さ | | | -.07 | |
| R^2 | .15 | .23 ** | .40 ** | .29 ** |

** $p<.01$, * $p<.05$

仮説2 について検討するため、理想のキャプテンシーに関する4因子の各尺度得点を従属変数とする階層的重回帰分析を行った (Table 1)。結果・能力を従属変数とする重回帰分析の結果を確認したところ、個人目標において有意な正の標準化偏回帰係数が認められた ($\beta=.45, p<.01$)。よって、仮説2は支持された。この結果が示された要因として、人間は類似した態度を持つ他者を好む性質があることが挙げられる。

また、仮説外の結果として、M機能を従属変数とする重回帰分析の結果、個人目標 ($\beta=.27, p<.05$) において、有意な標準化偏回帰係数が認められた ($R^2=.40, p<.01$)。この結果は、高校野球というスポーツの特性が要因となっていると考えられる。

引用文献

- 石田 靖彦・小川 久之 (2011). スポーツ系部活動における目標志向性が部活動での取り組みに及ぼす影響 -個人目標, 集団目標の観点から- 愛知教育大学研究報告. 教育科学編, 60, 111-117.
- 村井 剛・猪俣 公宏 (2010). 勝利志向型スポーツチームにおける理想のキャプテン像について 実験社会心理学研究, 50(1), 28-36.